

キャンヘルプタイランド会報

キャンヘルプタイランド会員の皆様

会員の皆さん、ドナーの皆さん 2017年度はキャンヘルプタイランドの活動に温かいご支援を賜り、ありがとうございました。おかげ様をもちまして、すべてのプログラムを無事に終えることができました。

キャンヘルプタイランドが活動を始めて、27年が過ぎました。昨年は、創設者であるハリーレイ先生が他界し、これまでのキャンヘルプタイランドの活動を振り返ることの多い年でもありました。

活動を始めた当初は、義務教育が小学校6年間のみで、進学を希望しても叶わず、小学校を出てすぐ働きに出ざるを得ない子供たちが大勢いました。90年代に入って教育の機会拡大政策により、小学校が中等教育の一部(3年間)を担うようになってからは、小中学校で深刻な教室不足が起これり、私たちがビルディングプログラムを始めたころは、柱と屋根だけの教室にぼろぼろの机と椅子だけを並べて授業を行う風景がそこかしこで見られたものでした。

あれから四半世紀、多くの子供たちが当たり前のように中学、高校へ進学するようになり、以前見られた青空教室はほとんど見られなくなりました。それに合わせてキャンヘルプタイランドも少しずつ活動の形を変えてきました。当初は、中学進学へのきっかけづくりのために薄く広く配っていた奨学金ですが、「すみれ奨学金」のような十分な能力を有しながら経済的な問題から進学を断念せざるを得ない学生に手厚く支援する奨学金プログラムを並行して実施しているほか、タイ北部の山岳民族向けの支援活動、隣国カンボジアでの支援活動も2017年から行っています。今後も本当に支援を必要としている人のもとに必要な支援ができるよう、また皆様からいただいた支援金が有意義に使われるようスタッフ一同努めてまいります。2018年度も温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

1、建設プログラム	2 ページ
2、奨学金プログラム	3 ページ
3、すみれ基金	4 ページ
4、山岳部少数民族プログラム	5 ページ
5、ランチプログラム	5 ページ
6、図書支援プログラム	5 ページ
7、国内活動	5 ページ
8、会計報告	6 ページ
9、レイ先生を偲んで	7 ページ
10、理事運営委員紹介	8 ページ
11、ご寄付のお願い	8 ページ
12、会員募集と継続のお願い	8 ページ

キャンヘルプタイランド

会長 西川 弘達

1、建設プログラム

2017年度の建設プログラムは、タイとカンボジアを合わせて5件の建設支援を行いました。

●タイ・メーホンソン県ポーソー学校の学生寮トイレ建設

タイ・メーホンソン県のミャンマー国境に近い山奥の村にあるポーソー学校は、全校生徒500名のうち約400名が学校内で寮生活をしています。昨年の12月に学校の卒業生から、寮のトイレ支援の依頼がきたので、キャンヘルプタイランドの建設プログラムで支援することになりました。約30万パーツのトイレ建設予算のうち、キャンヘルプタイランドは10万パーツの支援を行いました。残りの20万パーツは、学校が独自に集めたお金と、この学校の卒業生ですみれ基金奨学金の学生が中心となり募金活動を行って集めたお金が充てられました。



●カンボジア小学校トイレ支援

1990年代初頭に内戦が終了したばかりのカンボジアには、多くのNGOが支援に入り、各地に小学校の建設新を行いました。それから約30年が過ぎ、第2次ベビーブームとなっている地方都市では、学校の教室不足が深刻な問題となっています。ちょうど20年前、キャンヘルプタイランドの建設プログラムも、タイのイサーン地方の学校に教室が足りなくて、壁のない仮設教室で勉強している子どもたちの教育改善を目的として始められました。現在のタイは、少子化傾向にあり、教室不足などの問題も解決されたので、2017年度から、新たにカンボジア支援を始めました。ただ、カンボジアには信頼できるネットワークもなく、大きな支援は難しいので、まずは低予算でできるトイレ支援から始め、ゆくゆくは校舎建設などの大きな支援につなげていきたいと考えています。

2017年度はカンボジア西部のバットバン州サンパオルン郡の小学校4校でトイレ建設支援を実施しました。

- ① タサダ小学校：2016年後半からの募金活動で集まった30万円で4部屋トイレを支援
- ② カンダル小学校：3,000ドルの4部屋トイレを支援（千種ロータリークラブ様）
- ③ ベントレット小学校：2,500ドルの2部屋トイレと井戸用ポンプを支援（千種ロータリークラブ様）
- ④ トラウチョー小学校：3,000ドルの4部屋トイレを支援（千種ロータリークラブ様）



2、奨学金プログラム

2017年度は、新規19名を含め106名の子供たちを支援いたしました。昨年度からの繰越金8万円と今年度11月末日現在皆様からご寄付頂いた金額92万円を、上記106名と下記山岳部少数民族への20名に充当し、不足した26万円は「指定なし寄付金」を充当させていただきました。なおその後にご寄付を頂きました6万円を次年度に繰越させていただきます。

授与式を実施しない県への継続生に対しては、送金で30人（昨年比-8名）への支援を実施しました。

当初の支援人数見込みは昨年度の117名から10名減の107名程を予定していましたが、全体では昨年より11名の減少となりました。

奨学生の内訳

サッケオ県	4名(-1)	プリラム県	7名(-4)	スリン県	6名(0)
シーサケット県	5名(0)	ヤソトーン県	2名(-3)	サコンナコン県	4名(-2)
ムクダハーン県*	16名(-1)	ナコンパノム県*	10名(-7)	カラシン県*	16名(+3)
マハサラカーム県*	19名(+1)	ロイエット県*	17名(+3)		

*印の5県は授与式を実施しました。(坂が参加)

カッコ内の数字は前年からの増減

- 申請書類、手紙の翻訳

昨年に続き愛知県に在住のタイ人10名以上の協力で8月から事務所にて翻訳会を開催して楽しく翻訳作業を実施しました。ドナーの皆様には申請書類や手紙を同封し支援内容の報告をさせていただきました。

- クリスマス&年賀カードの送付

今年も12月中旬に奨学生106名全員にカードを送りました。

ぜひドナーの皆様も絵葉書や手紙を書いていただきたくお願いします。(事務局へお送り頂きますればタイ語に翻訳して当該奨学生に送ります)

- 山岳部少数民族支援に対する奨学金支援

山岳部少数民族プログラムとの共同事業として昨年より試行した「山岳部少数民族に対する奨学金支援」はカサロンの家の寮生から20名の応募があり申請内容を検討した結果、20名全員への支援を実施しました。(16名分は指定なし寄付金から4名分を山岳部少数民族プログラムへの寄付金から支出しました)彼らの家庭は現金収入が少ない中で教育を受けさせたい一心で子供達を寮生活させている事から、一人当たり3000パーツの支援金がカサロンの運営にも寄与している側面もある為今後とも継続していきたいと思えます。この共同事業は今後もより効果的な支援の実施方法を模索していきます。

*奨学金プログラムの支援は合計して126名となりました。

3、すみれ基金

2011年に発足した「すみれ基金大学生奨学金」も8年目を迎えました。新規募集奨学生は2016年度に終えて、昨年からは継続奨学生を卒業まで支援しています。

2018年度は4名の奨学生を支援いたします。そのうち2名の学生が卒業予定となります。

「すみれ基金」募集奨学生・年度別・実施表としてまとめてみました。2016年以降分

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	合計
021						○	○	□	●	●	5
022						○	○	□	●		4
023						○	○	□			3
人数	5	9	9	11	11	10	6	4	2	1	68
支援額	269,500	218,300	492,800	360,500	387,000	470,000	282,000	188,000	94,000	47,000	2,809,100

注：行は奨学生、列は奨学金支援年度を表します。●は支援予定

すみれ奨学生からの手紙

ドナー様、スタッフの皆様、こんにちは。お元気ですか？私は元気です。チャンタブリー県で仕事しています。遠くてどこにも行けません。(バイクがありません) かなり大変です。もっと(街に)近い仕事を探しています。Bangkok Suwannaphum 大学で進学したいと考えているからです。日曜日だけの勉強です。Sukothai Thammatirat 通信大学で勉強するのもいいかもしれませんが。もう少し仕事が落ち着いてから決めます。皆様、私にこのいい機会をくださってありがとうございました。(バンコクに行くことがあれば、FREE 事務所の掃除をお手伝いしますよ。)そして奨学金を頂いている、もしくはこれから申請する後輩のみなさん、いい機会に恵まれたらしっかりキープしてください。みなさんは愛と優しさで支援して下さるからです。私たち奨学生は一生懸命勉強すること、反発してもいいけど、ちゃんと前に向けて進歩すること、勉強に悪い影響がないようにすることです。支援して下さる皆様はこれ以上何も望んでいません。最後になりますが、みなさんのご多福、ご健康をお祈りいたします。ずっとこのように子供たちのそばにいてください。

Naranya Kanoksampanporn (ジェーン)

*** 現在 チョンブリー県で仕事しながら日曜大学に通っています。専攻は会計学です。

ドナー様、スタッフの皆様、いかがお過ごしでしょうか？シーサケットでは雨の天気です。ひんやりしています。皆さんもご健康に注意してください。

私は短大を卒業しました。ご支援して下さった奨学金はすべて勉強のために使いました。たとえば文房具の購入費、寮費、食費、交通費、生活用品の購入費などです。私を支援して下さったドナー様に大変感謝しています。貧困で、高校卒業しても進学できないだろう、と言われた子が短大まで卒業できました。学校の休みには一生懸命アルバイトをして、更にこの奨学金をいただいたからここまで成功できました。皆様に感謝の気持ちを申し上げます。

これから私はもう進学しないと思います。まずは仕事です。十分に貯金できてから進学したいと思います。勉強は一生できるものです。人はそれぞれ生まれ持ったものは違います。私は他の人みたいにきれいに舗装された道を歩むことができなくても、歩いていく途中の経験をたくさん積んでゆき、成功できると思います。これからちゃんと仕事をして、できるだけ社会に貢献していきます。

最後になりますが、ドナー様及びご家族の皆様、そして財団のスタッフの皆様の皆様のご多福、ご成功、願うことが叶いますよう、お祈りいたします。

Siriporn Boonkao (Srisaket Technical College)

*** 5月から部品工場のQC課で働きましたが、現在実家で農業をしています。

ドナー様、スタッフの皆様、こんにちは。こちらはまだまだ暑い日々が続いています。だんだん厚さが増して、雨も全く降りません。冷たい飲み物を頼りにしなければなりません。

僕は卒業しました。3月30日に卒業証書を受け取りました。とてもワクワクしました。シリントーン王女様が何度かいらしゃったNakornpanom大学のホールで受け取りました。大変光栄です。

僕は徴兵制度に申請すると言いましたね。ちゃんと申請しましたよ。体格はすべて大丈夫でしたけど、BMI(体脂肪率)が35を超えたので却下されました。ちょっとがっかりしましたが、今仕事を見つけました。Bank for Agriculture and Agricultural Co-operatives(農業および農協のための銀行)で日雇いの職員になりました。そして、僕はSukothai Tammatirat通信大学に進学ことを決心しました。最初は専攻を金融学にするか、会計学にするか迷いましたが、いろいろな人に助言を頂いたり、自分で考えたりして会計学にしました。短大の専攻も会計学でした。今いろいろ進学の情報を集めています。

いつもみなさんのことを思います。Wattana Saengsuwan (Nakornpanom 大学 Thatpanom College)

*** 現在銀行に勤めながら通信大学で勉強しています。

皆さん、こんにちは。最近宿題が多くて大変です。卒業試験の勉強、卒業プロジェクトなどがたくさんあります。最近アルバイトをする時間がありません。プロジェクトの発表が無事終わりました。レポートは多少修正すべきところはありますが、最終試験の前に提出しました。卒業証書が4月に出る予定です。

休みの間の3か月くらいはいつものところでアルバイトをします。大学に進学するための資金になります。後2年で大学を卒業します。頑張ります。短大の2年間のご支援ありがとうございました。いろいろな費用に大変役に立ちました。

Amporn Montatanakul (Singburi Agricultural & Technical College)

*** 現在 Rajamangkala Suwannaphum 大学で会計学を勉強しています(編入)。

4、山岳部少数民族支援プログラム

2017年度は、奨学金として「カサロンの家」の子どもたち 20名に合計 60,000 バーツの支援を行いました。また、2017年3月には子どもたちをタイ南部ホアヒンの海へ連れていくツアーも開催されました。その際、2名の大学生が日本から参加しました。8月には4名の大学生がチェンマイのカサロンの家を訪問し、子どもたちと交流したり田んぼ仕事を手伝ったりと、ボランティア活動をしました。

5、ランチプログラム

2017年度のランチプログラム支援は、支援対象が見つからなかった2016年度分の寄付金も合わせて、チェンマイの学生寮「カサロンの家」の給食の充実化を図るために牛小屋建設と子牛の購入資金、合計 80,000 バーツを支援しました。2018年2月には牛小屋建設の為のワークキャンプも開催されます。



6、図書支援プログラム

昨年度はネット応募ができるフジテレビグループ主催の「Be 絵本大賞」へ応募しましたが発表を見るとプロへの登竜門的な作品が多くタイの子供達にはそぐわないため、今年度は（従来応募していた）射水市主催の「おしま手作り絵本コンクール」に応募しました。

20点以上の中からムクダハーン県から応募があった3人の共同制作による「消えたケーキ」を応募した結果、北陸中日新聞社の「奨励賞」を受賞しました。次期の奨学金授与式に、その栄誉をたたえるために3人を招待し受賞をお祝いする予定です。その時には昨年度からの繰越金 7,000 円の残金と今年度の残金を合わせて記念品を贈る予定です（支出は来期になる）。

- ・あらい文庫

昨年度よりお預かりしている 22,700 円を、新井氏ゆかりの学校であるムクダハーン県のバンドンムアイ学校に対して支援を実施しました。

7、国内活動

2017年度は、名古屋 NGO センター主催のイベント等に積極的に参加することができました。

- 6月 スタディーツアー合同説明会 メーデーフェス
- 8月 名古屋千種ロータリークラブ創立 35 周年記念式典
- 10月 ワールドコラボフェス（ブース出展）
- 12月、2月 ワールドエコカレッジ（スタディーツアー紹介）

募金活動として、READYFOR というクラウドファンディングにも登録し、インターネットを利用した資金集めを開始しました。

8、2017年度会計報告（2017年2月1日～2018年1月31日まで）

貸借対照表

資産の部		負債の部	
【流動資産】	17,672,161	【流動負債】	90,000
三菱 UFJ 銀行1	193,341	預り金	40,000
郵便振替口座	11,486,133	前受金	50,000
タイ 現金	131,938	負債の部合計	90,000
// 普通1	3,442,757	資本の部	
// 定期 1	2,101,931	【剰余金(欠損金)】	17,582,161
// 定期 2	316,061	当期末処分利益(損失)	17,582,161
		(うち当期利益(損失))	△ 1,083,844
		資本の部合計	17,582,161
資産の部合計	17,672,161	負債・資本合計	17,672,161

(注) 消費税の経理処理方式 税込処理
 タイ資産は期末のバンコク銀行交換レートの1パーツ→3.65円で換算した

損益計算書

自 2017年2月1日 至 2018年1月31日 (単位:円)

経常損益の部	
【営業損益の部】	
【営業収益】	
【 収 入 】	
奨学金 寄付金	980,000
図書 寄付金	8,000
給食 寄付金	135,000
建設 寄付金	20,000
山岳 寄付金	47,000
運営 寄付金	198,670
その他 寄付金	422,000
カンボジア寄付	1,072,330
売上高合計	2,994,170
【 支 出 】,	
タイ奨学金支援	1,933,190
タイ図書支援	126,753
タイ給食支援	253,600
タイ山岳支援	158,500
タイ経費奨学金	75,924
タイ経費 建設	131,762
カンボジア支援	1,443,000
カンボジア経費	236,265
タイ経費奨学金	48,640
日本 図書支援	4,086
合 計	4,411,720
売上原価	4,411,720
売上総利益(損失)	△1,417,550
【販売費及び一般管理費】	
販売費及び一般管理費合計	540,565
営業利益(損失)	△1,958,115
【営業外損益の部】	
【営業外収益】	
受取利息	43,673
為替 差益	828,060
営業外収益合計	871,733
【営業外費用】	
利子への税金	3,132
為替 差損	△5,670
営業外費用合計	△2,538
経常利益(損失)	△1,083,844
税引前当期利益(損失)	△1,083,844
当期利益(損失)	△1,083,844
前期繰越損益	18,666,005
当期末処分利益(損失)	17,582,161

(注) 奨学金支援の内「すみれ基金」分は 734,929円

販売費及び一般管理費内訳書

自 2017年2月1日 至 2018年1月31日

(単位:円)	
旅費交通費	21,000
通信費	35,854
消耗品費	5,443
水道光熱費	16,990
諸会費	10,000
支払手数料	3,712
地代家賃	142,560
郵送費	25,050
業務委託料	259,884
印刷費	20,072
販売費及び一般管理費合計	540,565

利益処分案

(単位:円)

当期末処分利益	17,582,161
次期繰越利益	17,582,161

田中與浩氏より 2018年3月2日に
 監査を受け承認されました。

9、レイ先生を偲んで

キャンヘルプタイランドの創設者のハリー・レイ先生が、2017年8月にお亡くなりになりました。キャンヘルプタイランド設立当初のメンバーの方に、レイ先生の思い出を寄稿頂きましたのでご紹介いたします。

ハリー・レイ先生は私にとって「恩師」そのものです。

初めてレイ先生とお会いしたのは、1996年のキャンヘルプタイランドの第2回ワークキャンプの説明会でした。私は当時、レイ先生が教鞭を取っていらっしゃる南山大学の学生でしたが、キャンヘルプの存在は知りませんでした。私がキャンヘルプを初めて知ったのは、そのころ入っていた部活動を辞めて、新たな目標を探していた時に、母が見つけたワークキャンプの参加者募集の新聞記事でした。期待と不安の中向かった大学内での説明会で、温かく出迎えてくださったのが、クラブキャンヘルプのみなさんと、レイ先生でした。レイ先生の人懐っこい笑顔で一気に不安が吹き飛び、ワークキャンプ参加への後押しをしてくださいました。その後、ワークキャンプに参加して、一気にタイやキャンヘルプの活動にはまった私は、3年連続でワークキャンプに参加したほか、クラブキャンヘルプタイランドのメンバーになり、レイ先生の研究室で事務局のお仕事を手伝うようにもなりました。



レイ先生のことを思い出すと、いつも浮かぶのはその魅力的な笑顔です。その笑顔と明るさで、ワークキャンプの参加者だけでなく、タイの教育委員会のみなさん、学校の先生、そして子どもたちの心を開き、すぐに仲良くなられました。また、お茶目な先生は、タイの子どもたちの前でニワトリのものまねをしたり、南山大学の文化祭でタイカレーを販売したときに、自らサンドイッチマンとなって、たくさんお客さんを集めてくれたりしました。奥様と一緒に食事させていただいたときに、よく冗談を言って、ウインクしていらっしゃることも昨日のこのように覚えています。

その一方で、なぜタイに支援が必要なのかということや、キャンヘルプのポリシーである「活動費は寄付の5%までに抑えること」を語られるときの熱意は、並々ならぬ意志の強さを感じられました。ご自分で一から立ち上げた組織を、最高では会員数200人に達するまでに成長させる先生のバイタリティーの表れだと思いました。

レイ先生のすばらしいところ、私が尊敬しているところは挙げればきりがありませんが、やはりその人柄です。誰にでも分け隔てなく接し、心を開いてくださることや、その熱意で、これだけ多くの方がキャンヘルプの活動を理解し、応援しようという気持ちになったと思います。当時、ワークキャンプと同時に「イングリッシュ・ワークキャンプ」という事業を行っており、英語を母語とするボランティアがタイの学校で英語の授業を行ったのですが、その方たちもワークキャンプ参加者と同じ場所で寝泊まりしました。国籍や出身地、年齢、職業、参加動機など、すべてが多様なボランティアがともに過ごせたのは、キャンヘルプの活動そのものに、レイ先生のおおらかさや包容力が現れていたからだと思います。そのおかげで、キャンヘルプを通じて、私自身も多くの素晴らしい仲間に出会えることができました。

また、私が参加していた当時、ワークキャンプのコーディネーターは学生が行っており、第3回のワークキャンプは私もその一人でした。学生の我々では行き届かないことやミスもありましたが、それを広い心で受け止めて支えてくださったおかげで、私たちは成長する機会をいただきました。

このように、レイ先生にはお世話になってばかりで、本当に感謝してもしきれないほど、です。私は大学で授業を受け持っていたことががあるので、英語を教わる機会がありました。そのうえ、キャンヘルプの活動を通じて、国際協力の在り方、一人の人間としての生き方を教えていただきました。今私は教員として働いているので、レイ先生のように、生徒の心を動かし、育てることができるような教師になりたいと思っています。それが、せめてもの先生への恩返しになればと思います。レイ先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

マルヤマビエイラ有未子（旧姓 水谷）

10、2018年度の運営委員と理事の紹介

特定非営利活動法人キャンヘルプタイランドとして以下のような体制で運営いたします。

引き続き運営委員の募集を行っていますので、興味のある方は是非ご参加ください。

運営委員	西川 弘達 (代表理事長)	大矢 治夫 (代表副理事)	大矢 まゆ美 (理事)
	坂 茂樹 (理事)	松本 康裕 (理事)	内田 由布子
	新實 佳奈 (旧姓 藤井)	寺島 優美	山本 満紀子

11、ご寄付のお願い

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名(寄付金の使途)を記入してお振込み下さい。銀行振込の場合で寄付金の使途を指定される場合は、別途、葉書かお電話、Eメール等でご連絡をお願いします。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1口	10,000円
ランチプログラム	1口	5,000円
建設プログラム	1口	5,000円
図書支援プログラム	1口	1,000円
山岳民族支援プログラム	1口	10,000円
カンボジア支援プログラム	1口	5,000円
運営基金	1口	1,000円
会費※	1年	3,000円

※ 会員制度とは…
 会員になっていただいた方には、年4回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。
 年1回、会費3,000円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド 番号：00280-2-43793

12、会員募集と継続のお願い

キャンヘルプタイランドでは、会の運営を円滑にするために運営費を支えていただける「会員」を募集しています。多くのNPOが寄付金の15~30%もの運営経費で運営されているのに対して、私たちは、わずか5%の経費しか計上していません。従って10年前から会員の皆さんの会費(年額3,000円)で運営費の不足分を補っているのが現実です。会員の皆さんには年4回の「ネットワーク通信」で活動の詳細をお伝えすると共に、各種行事のご案内もいたします。皆様のご協力をお待ちしております。

お問い合わせ先

住所：〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43

日商ビル2階NPOステーション内

キャンヘルプタイランド事務局

TEL&FAX：052-566-5131

(事務所開設時間不定期 事前来所予約必要)

Eメール：office@canhelp.jp

特定非営利活動法人

キャンヘルプタイランド会報

Vol.3

ネットワーク通信 Vol.80 合併号

発行：キャンヘルプタイランド

発行人：西川 弘達

編集人：坂 茂樹

発行日：2018年3月